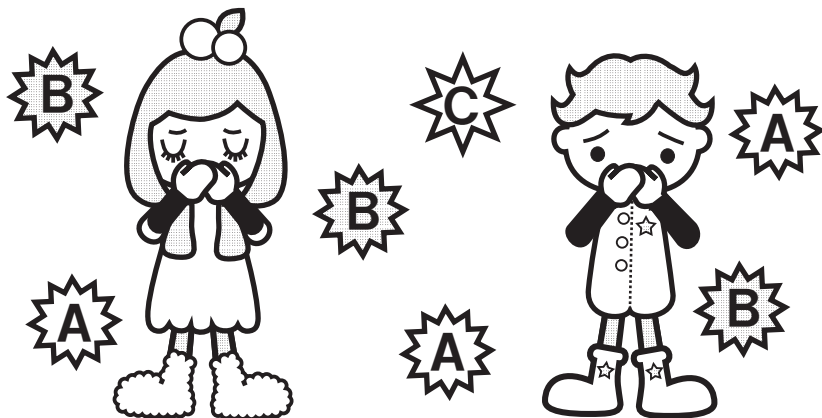


キッズシリーズ⑦

インフルエンザ

～お子さんがインフルエンザにかかった時の対応～



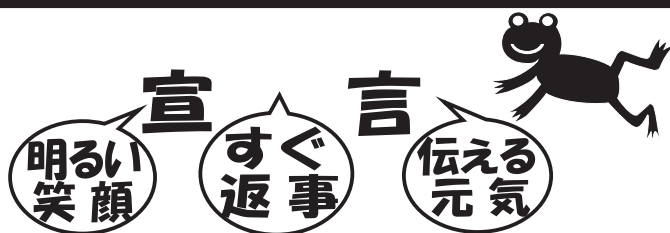
「インフルエンザ」ってどんな病気？

乾燥して寒い11～3月に流行します。

高熱、咳、下痢、嘔吐などを伴い、症状が重い

A、B、C型のインフルエンザウイルスの感染により起こる病気です。流行するのはA、B型です。A型はさらに、ソ連型や香港型、新型に分かれます。

合併症として中耳炎や気管支炎、肺炎、熱性けいれんを起こすこともあり、まれに脳炎や脳症を起こすことがあるので、お子さんがぐったりしている時はすぐに病院に行きましょう。



かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

…インフルエンザの感染…

主に咳やくしゃみによる飛沫感染が多く、口や鼻を經由して呼吸器系に感染します。空気感染や接触感染などもあります。

空気が乾燥すればするほど、長時間空中に漂うことができるため、乾燥した冬季に流行しやすい病気です。また、のどや気管支が乾燥するとウイルスが感染しやすくなるのも冬季に流行しやすい理由のひとつになります。

<特徴>

普通のかぜよりも全身症状(体の痛み、頭痛、全身のだるさ)が強くなるのが特徴です。

- 感染してから発症までの期間
…通常1~2日。最大7日。
- 他の人へ感染させる時期
…発症日の前日から発症して3~5日、小児で約7日とされています。

症状が良くなってから約2日を目安に、通勤や通学は避けましょう。

<症状>

突然の高熱、悪寒などの全身症状から始まります。

熱… 悪寒、38~40度ぐらいの高熱が3日から重症の場合、7日間ぐらい続きます。

苦… 全身のだるい、食欲不振

痛… 頭痛、手足の筋肉痛、腰の痛み

腹… 下痢、嘔吐

咳… のどの痛み、咳、鼻水などのかぜ症状

ほとんどの症状は2~3日がピークになり落ち着きますが、場合によっては熱や激しい咳が1週間程度続くこともあります。

治療と家庭でのケア

…お家でのケア方法…

体温、顔色、機嫌、咳の具合、便の状態、おしっこの量・色を観察します。
インフルエンザはタミフルを飲まなくても、発症1~2日の夜間は高率で異常行動を起こす可能性があります。
特に、夜間就寝時は付き添ってあげましょう。

- 高熱、下痢、嘔吐などの症状が続く時は、脱水の予防が重要です。水分はこまめに与えましょう。
- 汗をかいたら、こまめに着替えさせ、蒸しタオルなどで体を拭いてあげましょう。
- 症状がおさまっても、しばらくは家の中で遊ぶなど、静かに過ごさせましょう。

繰り返し嘔吐やけいれんを起こしたり、ぐったりして意識がなくなるといった症状の時には、脳炎や脳症が考えられるので、すぐに小児科に受診しましょう。
インフルエンザと診断されたら、いつも以上にお子さんの様子に気をつけてください。

…予防・対策…

家族には帰宅後のうがいをしてもらう、流行している時には人混みは避けるなど、予防に気をつけましょう。

- うがい→ のどの乾燥を防ぎます
- 手洗い→ 接触による感染を防ぎます
- 加湿→ 湿度50～60%に保つのが効果的です
- マスク→ 咳やくしゃみの飛沫からの感染を防ぎます
- インフルエンザワクチン(予防注射・予防接種)
→ インフルエンザワクチンは接種してから約2週間で効果が出ます。流行前に接種を終えておくと効果的です。



…インフルエンザの一般的な治療…

- 抗インフルエンザウイルス薬
 - ・発症後、48時間以内の使用で効果
 - ・ウイルス増殖を抑制
- 解熱剤
高熱には解熱剤を使いますが、医師の指示で使しましょう。
症状をやわらげて、体力の消耗を防ぎ、お子さん自身の力で病気と闘えるよう手助けしてあげるもの、と考えて使しましょう。
- 抗生物質
気管支炎、肺炎、中耳炎などの合併症を予防するために使うことがあります。4-



合併症について



注意

『ぐったりしている場合はすぐに受診』

インフルエンザはかぜよりも症状が重く、合併症を起こす可能性もあります。

中耳炎

合併症のなかでも最も多くみられます。

<症状>

中耳に膿がたまり鼓膜にかかる圧力が高くなるので、耳がひどく痛みます。グズグズと機嫌が悪く泣いてばかりいて、しきりに耳をいじったり耳を触られると嫌がる場合は、急性中耳炎の疑いがあります。

<原因>

鼻やのどに付着したウイルスや細菌が耳管を通過して中耳に入り、炎症を起こす病気です。

<治療>

- 細菌が入った場合…抗生物質で治療します。
- 炎症がひどい場合
…鼓膜を切開して膿を出すことがあります。
鼓膜は数日後にはくっつくので、切開した穴が開いたままになる心配はありません。
- 受診する前に自然に鼓膜が破れて膿が出ている場合
…抗生物質の点耳薬などで治療することもあります。

<ケア>

熱が高いケースも多いので水分補給をしっかりと行い、痛がる場合には冷たいぬれタオルを耳の後ろに当てて痛みをやわらげてあげましょう。

気管支炎

<症状>

熱が続き、激しい咳が続く時は気管支炎や肺炎の疑いもあります。

「コンコン」という乾いた咳が出て、次第に痰がからんだ

「ゴホンゴホン」という湿った咳に変化します。

炎症がひどくなると気管支が狭くなるので呼吸困難を起こしたり、肺炎を起こしたりします。

<原因> ウイルスそのものや他の細菌による二次感染が原因です。

<治療>

気管支の症状が現われるのは、インフルエンザの熱が出てから2~3日後になるため、一度受診していても再受診する必要があります。

○痰を出しやすくする薬や気管支を広げる薬を使います。

○細菌感染が原因の場合は抗生物質も使います。

<ケア>

離乳食やミルクを一度にたくさん食べると咳が出た時に吐きやすくなるので、少量ずつ、こまめにあげるといいでしょう。

肺炎

<症状>

高熱が何日間か続き、激しい咳が出て、普段より呼吸が荒く苦しそうな時は肺炎の疑いがあります。

<原因>

ウイルスや細菌が肺に侵入して炎症を起こす病気です。ウイルスそのものが原因となるケース(ウイルス性)とウイルス感染がきっかけとなって細菌の感染を受けるケース(細菌性)があり、どちらも症状はほぼ同じです。

<治療>

肺炎と分かったら、多くの場合入院して肺炎の治療を行います。

○ウイルス性の場合…対症療法として痰を出しやすくする薬や解熱剤を使うこともあります。

○細菌性の場合…抗生物質を使います。

●呼吸困難がひどい時…酸素吸入を行います。

●脱水症状を起こしている場合…点滴をします。

<ケア>

赤ちゃんは症状の進行が早く、急変することもあります。

しつこく咳が続く苦しそうな時には早めに受診しましょう。

熱性けいれん

<症状>

発熱を伴って、手足が突っ張り、全身にけいれんを起こして意識を失います。白目をむいたり、唇が紫色になることもあります。

普通は十数秒から2~3分程度で治まります。

<原因>

発熱が未熟な脳に刺激として伝わるのが原因です。

多くは熱が急に上がっていく時にけいれんを起こします。

<治療>

けいれんを抑える薬を使います。

<ケア>

けいれんが起きたら衣服を緩めて、顔を横に向けて平らなところに寝かせます。口に物を入れたり、揺すったりして刺激を与えてはいけません。

たいていの場合は、数分以内に治まりますが、「10分以上続く」・

「何度も繰り返す」・「けいれんが治まっても意識が戻らない」時は脳炎・脳症の可能性もあるのですぐに受診してください。

インフルエンザ脳炎・インフルエンザ脳症

<症状>

呼びかけても反応がない、ぐったりとしてウトウト寝てばかりいるなどの意識障害や異常行動が現われ、けいれんを伴うことがあります。

<原因>

主に脳にウイルスが直接入って増え、炎症を起こすのが

「インフルエンザ脳炎」、脳にウイルスが入ってなくても、脳炎と同じような症状が現れるのが「インフルエンザ脳症」とされています。

※一部の解熱剤で引き起こすとも言われているので、気を付けましょう。

<治療>

今の段階では脳炎・脳症を根本的に治療する方法はありませんが、脳のむくみを取ったり、けいれんを抑えるといった対症療法が行われます。

<ケア>

どちらも命をおとすこともある病気で、回復しても運動機能や知能に障害が残ることがあります。高熱が続き、意識障害があったり、けいれんが

10分以上続くような時にはすぐに医師の診断を受けてください。